第１９回紀の川市子ども・子育て会議
議事概要

日　時	令和５年１０月３１日（火）　１３：３０～１５：１５		
場　所	紀の川市役所　２階　市民協働スペース		
出席者	（順不同敬称略） 【委員】 金川委員（会長）、嶋田委員（副会長）、青木委員、藤田委員、森岡委員、松本委員、木下委員、清原委員、寺田委員、薗田委員、平岡委員、古田委員、真砂委員、長岡委員、藤井委員 【事務局】 辻本、井本、堀口、峰田、榎戸、山本、鈴木、渡辺、瀧本、南		
欠席者	２人	傍聴者	なし
議　題	（１） 紀の川市子育て支援施策の状況について ● 教育・保育事業の施策状況【資料Ａ】 ● 地域子ども・子育て支援事業【資料Ｂ】 （２） 第３期紀の川市子ども・子育て支援事業計画策定に伴う市民ニーズ調査について ● 事業計画策定スケジュール【資料Ｃ】 ● 調査概要【資料Ｄ】 ● 子ども・子育て支援に関する調査（案） 就学前児童の保護者用【資料Ｅ】 小学生の保護者用【資料Ｆ】		
資　料	資料　第１９回紀の川市子ども・子育て会議（資料Ａ～Ｄ） 資料　子ども・子育て支援に関する調査（案）（資料Ｅ・Ｆ） 資料　第三期市町村子ども・子育て支援事業計画等における「量の見込み」の算出等の考え方（初版）		

１．開会

２．あいさつ

３．委員紹介

４．会長・副会長選出

会長は金川委員、副会長は嶋田委員。全員一致による承認。

５．議事

＜議題（１）紀の川市子育て支援施策の状況のうち、教育・保育事業の施策状況について、事務局より説明＞

金川会長　　教育・保育事業の確保状況、すなわち保育所、認定こども園、幼稚園を含めた定員数と利用者の確保がどれくらいかというのがこの資料Ａで、イメージとしては、都会のように待機児童が多く出ていることもなく、確保はできているが、状況によっては待機になることはあるということ。

資料Ａのところで、ご質問などあるか。

青木委員　　待機児童は解消されているということで、十分に受け入れができている状況だと思う。その一方で、和歌山以外の東京、神奈川、大阪などで保育所を運営しているが、全国的に保育所をつくりすぎたというのが今の日本の状況である。東京都でも地域によっては大きな定員割れをおこしていて、いかに保育所を閉園させていくかが議論されていて、実際にどんどん閉園している。同時に、必要があって保育所をつくったが、保育士が足りない。箱はあるのに受け入れができないという状況もある。先ほどの説明で、新設の話があったが、数字上では十分足りている状況なので、整備するのであれば同時に定員が少なくなっている保育所を集約するなどの議論も必要だと思う。

事務局　　もちろん全国的には定員割れしているところもある。今回新設予定の保育園は紀の川市の桃山地区で、今は安楽川保育園１園だけとなっている。なかなか低年齢児の受け入れがすべて確保できない状況で、第２希望に回ってもらうケースも出ている。そのような中で、低年齢児の受け入れの場として、新設の話は進んでいる。

併せて、打田地区と貴志川地区の公立保育所について、周りの私立保育園や認定こども園の状況を見ながら統廃合を進めていくことを考えている。そのような形で、二本立てで並行して進めていきたい。

金川会長　　他にご意見等はあるか。

それでは、続いて資料Ｂ「地域子ども・子育て支援事業」について事務局から説明をお願いしたい。

＜議題（１）紀の川市子育て支援施策の状況のうち、地域子ども・子育て支援事業の施策状況について、事務局より説明＞

金川会長　　ご質問やご意見があればお願いしたい。

松本委員　　病児保育事業の数字の取り上げ方だが、これは実質、保育園で熱が出るなどして保護者が迎えに来るまで看ていた子どもの人数になっていると思う。今回のアンケートでは、病気やケガでどれくらい保育所を休んだかとか、どう対処したかとか、結構詳しく聞いている。ファミリーサポートセンター事業の中にも病児保育事業はあって、その件数も出しているが、利用件数は非常に減っている。コロナ禍で発熱した子どもを預かれなくなったことと、企業主導型の保育園が地域にたくさんできた関係で、病児保育してくれるところが増えたことが理由だと思う。また、私たちも、病児保育の依頼があれば、先にそちらを勧めるようにしている。それは、ファミリーサポートセンター事業は有償ボランティアのような仕組みの事業なので、病児を預かってくれる方が非常に少なくなっている現状があるためである。預けられる方にとっても施設型のほうが安心できると思うので、今一度この病児保育事業の実態が分かるよう検討いただきたい。

事務局　　こちらの病児保育事業の数字については、市が把握できている人数、市から補助金を出している認可保育園に関するものとなっている。
　確かに、企業主導型の保育園でも、体調不良児に限らず病児・病後児保育を実施しているところもあるが、認可外の数字は現状つかめていない。なんとか状況をつかんでいきたいと考えているので、ご理解いただきたい。

金川会長　　次に計画をつくっていくときには、見込量と実績で、理解の仕方が違うとか、あまりに乖離があるというのはどうかと思うので、そういった部分も精査してほしい。
　あとは、養育支援訪問事業だが、実績からみると、紀の川市はかなり丁寧に取り組んでくれていることが窺えるが、実績が見込量の倍になっているのは、困難ケースが多いのか、従来から継続している家庭が解決されず長期で積み残っているのか、どういった要因があるのかというのが１点と、このような養育不安の家庭がきちんと要対協（要保護児童対策地域協議会）や学校に繋がっているのかという点がとても気になる。そのあたりの状況も含めて教えてほしい。

事務局　　　この見込の数字はコロナ前の状況だが、令和２年以降、要対協にかかる人数がかなり増えている。年間２割増しくらいで新規の受付をしている。昨年の要対協の新規受付人数は、虐待だけで１６８人。和歌山県内では和歌山市に次いで２番目に多い数字。増えている要因としては、新規受付人数の多さと、困難ケースもかなり増えてきていることが考えられる。実績の数字だけみると令和３年より令和４年は少なくなっているが、一人に対して何度も繰り返し訪問しなければならない、電話しなければならないという、かなり丁寧な関わりが必要な人が増えている。

こちらに計上している人は、すべて要対協登録となっている。学校や関係機関とは密に連携がとれている。

金川会長　　大変苦労しながら、丁寧に取り組んでくれていることに、敬意を示したい。

私自身は、逆に養育支援訪問事業や要対協に登録されずに、結果的に大きな事件になるよりは丁寧に予防しているのが一番だと思うので、件数が増えていることについては問題ではない。丁寧にフォローしてくれてている結果なので、お手数をかけるが、今後も継続してもらいたい。

他、お気づきの点、何かあるか。

青木委員　　養育に関連して、養育・療育の場として、放課後等デイサービスなどの障がいのある子どもたちが通う場所が、市内にはどれくらいあるのか、利用日数がどれくらいあるのか、理想的な数字はどれくらいなのか、といった部分が、この中に入ってくると、よりきめ細やかなサポート体制が構築できるのではないかと思う。

松本委員　　学童保育のことで少し教えていただきたい。いろいろな学童保育の体制があると思うが、紀の川市の場合、どのような形の委託か。指導員は社会保険対応しているのかどうかも教えてほしい。

事務局　　　学童保育は、市内に１０カ所あり、それぞれで運営委員会や保護者会に委託している。ただ、１カ所だけ、田中小学校の太陽の子は、社会福祉法人檸檬会に委託している。基本的には、法人への委託、もしくは運営委員会、保護者会などの団体に委託する形となっている。

社会保険については、運営委員会や保護者会で運営している学童では、そこまで自分たちで対応できていないところもある。すべてが同じ形の運営にはなっていないので、市としても統一していかなければならないと考えている。

松本委員　どの自治体でも運営に苦慮していると思う。学童保育もいろんな難しさがある。他の自治体がどのような運営しているのか聞くと、結構違いがあるのだなと感じる。
　放課後等デイサービスなどの療育について、数字をつかむことは難しいとは思うが、分かれば学童との差別化というか、受け入れ方も違ってくる。

金川会長　それでは続いて、第２号議案の審議に入りたい。資料Ｃ、事業計画策定スケジュールについて説明をお願いしたい。

＜議題（２）第３期紀の川市子ども・子育て支援事業計画策定に伴う市民ニーズ調査のうち、事業計画策定スケジュールについて、事務局より説明＞

金川会長　次の計画の策定時期が来ている。来年度、会議の回数が特に増えるが、よろしくお願いしたい。
　続いて、資料ＤＥＦに則って、ニーズ調査の説明をお願いしたい。

＜議題（２）第３期紀の川市子ども・子育て支援事業計画策定に伴う市民ニーズ調査のうち、調査概要と調査（案）について、事務局より説明＞

金川会長　子ども・子育て支援の調査は、ニーズ量を把握する必要があり、それにはこの調査の数字が重要なので、分量が多くなってしまう。特に就学前の保育所や幼稚園の保護者には手間をかけて申し訳ないが、Ｗｅｂ回答もできる。一般の調査でも５％くらい回答率は上がるので、子育て世代だともう少し上がってくるのではないか。
　お気づきの点等あればお願いしたいが、文言については、国からの調査項目でもあるので、変更できないところはある。
　アンケートは抽出されるとのことだが、有意というか、正確さは保たれるのか。

事務局　前回と同様の配付数、プラスＷｅｂ回答を含めて、回答率は前回よりも高い数字が見込めるので、有意性は保たれると想定している。

真砂委員　これが届いたら嫌だなというのが正直な印象。
　それから、子育て支援センターやファミリーサポートセンターなど、所々に注釈は入っているが、目的とか意義の説明ではなく、具体的なサービスの説明があった方がよい。アンケートを受け取った方には、紀の川市でどんな事業を行っているのか分かるチラシなどがあるとよい。

事務局　　　確かにそのようなものが入っていれば、施策のＰＲにもなるし、受け取った方もイメージしながら回答できる。事務局で検討したい。配付物の量などで難しいときは、ご容赦願いたい。

松本委員　　２ページの問９の「お子さんをみてもらえる」という表現が少し抽象的で答えにくいのではないかと思うので、「子育てをサポートしてくれる」というような言葉のほうがよい。

５ページから６ページにかけてのところ、自分で回答してみたが、すごく分かりにくかった。問１４の次に、問１４－３と問１６を入れたほうが分かりやすい。次に、問１４－１、問１５、問１４－２、問１７の順番がよいと思う。

それから９ページの一番上に、問１４で「１」に○をつけた方のみ、と書いていて、問１４に戻らないといけなかったので、設問の文言だけで分かるようにしたほうが良い。

１１ページの問２４と問２５だが、問２５がこの１年間のことで、問２４がこれからのことなので、順番が逆のほうが分かりやすい。

１７ページの体罰と虐待のところだが、別々に設問を分けている意味があるとは思うが、分かりにくい。問２９の２と問３０の１３は内容が重複しているので、その辺りも検討してほしい。

事務局　　　２ページの言い回しの部分についてだが、国が示しているものをもとにアンケートはつくっているので、言い回しを変えることで違うニュアンスが含まれてくることも考えられるため、この場で変更するとは言えないが、もう一度考えてみたい。

問１４の順番については、事務局で構成を見直したい。

１７ページの体罰・虐待・しつけのところだが、虐待等については年々増加していて、紀の川市でも、起こったものに対応するだけでなく、予防という部分に今後力を入れていきたい。そこで、市民の皆さんがどの程度の認識を持っているのかを把握したくて入れさせてもらったので、そこまで深い意味があって設問を分けているわけではない。

金川会長　　この問２９，問３０，問３１こそ、きちんとした周知が必要である。投げかけとしてこれらの質問をすると「この中でしつけとしてやってよいものはあるのか」と思われてしまうので、これこそできればチラシを入れてもらいたい。児童福祉法改正のときに、児童相談所でＡ４チラシを作成していたと思うので、アンケートで認識を聞くだけでなく、保護者の認識を深めていただくような仕掛けが必要である。

事務局　日々ケースワークをしていく中で、保護者が、自分自身の言動が虐待であるという認識がないということが多々あり、アンケートを通して、体罰や虐待に対する認識をもってもらえるようにと、今回これらの項目を加えさせてもらった。

設問の内容は、少し整理して分かりやすくしたい。チラシについても、事務局のほうで検討したい。

青木委員　Ｗｅｂ回答について、これだけの内容なので途中で保存できるようにしてほしい。

アンケート全体を通して、保護者の不安を聞く設問がないので、そこが聞けたらよいのではと思う。３ページの問１１は聞いているような感じではあるが、例えば、身近に子育てのことを相談できる人がいない、友達がいない、発達のことが分からない、妊産婦のときの不安が大きかったなど、そういった不安を大枠で把握できたらよい。

５ページのサービスについて、管轄を越えて児童発達支援事業所や放課後等デイサービスの利用状況も把握できればと思う。今回の計画は、現行計画との大きな違いとして、「こども誰でも通園制度」が始まろうとしているので、果たしてそういったニーズがどれくらいあるのか、参考にできたらよいと思う。

体罰や虐待について、親は多かれ少なかれ、つい手をあげたくなったときがあると思う。そうしたときにどのようなサポートがあるとよいのかなど、次に繋がることも聞けたら施策に反映しやすい。

金川会長　スペースに限りがあるが、青木委員の意見は非常に重要なので、できれば内容に入るようお願いしたい。

それでは、次の議題（３）その他にうつりたい。事務局から何か説明はあるか。

事務局　資料の８ページのスケジュールについて、次回の会議を２月下旬に予定しているが、アンケート結果の報告のみで、現時点では委員に諮る内容は予定していない。このまま協議、承認してもらう議題がなければ、郵送での報告としたいと考えているので、意見等あればお願いしたい。

金川会長　基本的にその方向で進めてもよろしいか。では、その方向で進める。

その他ということで、委員の皆さんに本日の内容や日頃の思いなど、一言ずつお願いしたい。

青木委員　会議の中で発言させてもらった。今後もいい計画にしていきたい。

藤田委員　　アンケートは、何を問われているのか分かりやすく、答えやすいものがよい。
　体罰や虐待についても定義が分かりづらく、これは体罰なのか、境界はどこにあるのか、といった疑問をもっている人が多いと思う。
　子育てを応援するという強い心で取り組まなければならない。子育ての不安を減らすような取組をしてもらいたい。

森岡委員　　私は普段学童保育で保育をしているが、紀の川市全体の子育てについて知らないことが多かった。事前に資料をたくさんもらって、一通り目を通しても、どこに着目すればいいのか分からなかったが、今回いろんな意見を聞いて、なるほどという内容が多かった。今後もたくさん勉強させてもらいたい。

松本委員　　私もすでに発言させてもらった。いろいろ教えてもらえて良かった。

木下委員　　保育所の所長という立場で感想を述べたい。私も森岡委員と同じく資料は見てきたが、どのような観点でというのがなかなか気付けず、今日は本当に勉強させてもらった。
　今は支援が必要な家庭が本当に多く、保育所としても保育の質の向上に取り組み続けていかなければならないし、働きやすい職場環境づくりもしていかなければと思っている。
　最近は子どもたちを巡る保育所での事件が多く、ニュースで見るたびに心を痛めて、保育所の職員とも話し合っている。国が異次元の少子化対策として、配置基準を決めるということで期待しているが、なかなか進まない。やはりゆとりのある保育士を確保できたら、ゆとりのある保育に繋げられるので、大事なのは人員確保だと思う。
　研修にも参加しているが、やはり毎日の保育を振り返ったり、人権セルフチェックを取り入れたり、職員みんなで共有しながら次の保育に繋げていくことで、保護者の皆さまの安心に繋がると思うので、毎日職員と取り組んでいる。

清原委員　　先ほどの青木委員の「保護者の不安を聞く」という言葉が印象に残った。今まで保護者と接する中で、なんでも言ってほしいと声を掛けても、なかなか心を開いてもらうまでには時間がかかるので、このようなアンケートによって、保護者が感じていることをピックアップしてもらえれば、一人でも二人でも救えるのではないか、何かできることがあるのではないかと思った。アンケートの大切さに気付けた。

寺田委員　　このアンケートなどを通して、子どもたちにとってより良い環境になっていけたらと思う。幼稚園からの配付もあるということなので、たくさんの方の手に渡ってたくさんの結果を得られたら、また会議で内容を確認していきたい。

藤井委員　　教育委員会では、生涯学習課で子どもの居場所づくりという事業を実施している。令和４年度では公民館等２カ所でやっていて、地域の方と一緒に子どもを育てていくということで、もっと充実した形で取り組んでいきたい。

薗田委員　　紀の川市の子ども施策には十分満足していて、今の時代に紀の川市で子育てできてよかったと思っている。

平岡委員　　私は子どもが３人いて、一番下の子が現在安楽川保育園にお世話になっている。うちは上の子も含めて同じ安楽川保育園に入園できたが、抽選に外れて入れなかった知り合いもいる。離れた保育所に行くとなると、朝夕の忙しい時間帯に２０分、３０分と余計に時間をとられてしまうので、この共働きの時代には厳しい。そういう意味でも、新たな低年齢児の保育所ができるというのは非常にありがたい。とはいえ、紀の川市内でも子どもが減ってきているので、ありがたい反面どう維持していくかという問題もある。

保育園の環境については、他の園のことは分からないが、非常によくみてもらえていて、ありがたい限りだと思っている。

古田委員　　事前に送ってもらった資料を見ているとすごく難しくて、委員が務まるのか心配なところもあったが、読んでいるうちに、上の子が小さかった時に思っていた「こんなサービスがあったらな」「もっとこうだったら助かるのに」というのを、いろいろ思い出した。それをまた皆さんに聞いてもらう機会があればなと思う。

真砂委員　　子育て支援というのは、物理的な支援だけでなく、もっと内面的なところが求められている。まずは、子どもの心と体が健やかに育つための支援、それから子育てに従事している保護者、保育士の皆さんが健やかに子育てできるということを目指すのが、本来の子育て支援なのではないかと改めて感じる。この会議で、そういった内容も協議できればと思っている。

長岡委員　　私は第１回から出席しているが、やはり時代は変わり子どもたちを取り巻く環境はすごいスピードで変化している。最初の頃は、小さな子どもを祖父母にみてもらえる環境があったが、今はその年代の方々も普通に働いているし、若い人たちも共働きなので、公共の支援がないと子育てはとても難しい時代になっている。このアンケートで様々なニーズを拾ってもらって、いい環境で子育てができるようにということと、保護者の心の健康を考えて、保護者にも支援がいくような方法を考えていただけるとありがたい。

嶋田委員　　実は私も今回で１０年目になるが、今までは事務局側だったので、初めて委員として出席させてもらった。

子育ての制度はすごく変わってきた。事務局の職員も追いつかないくらい、国が制度をどんどん変えていくような状況。最近では、こども家庭庁ができて、いろいろな省庁から業務が移ってきていて、紀の川市職員としても遅れをとらないように、体制を整えていきたい。今後ともどうぞよろしくお願いしたい。

金川会長　　このように皆さんの率直な気持ちを聞かせてもらうことで、新たなアイデアやヒントが生まれてくることもある。良い機会を共有できた。

本日の議題がすべて終了したので、事務局にマイクをお返ししたい。

６．その他

特になし

７．閉会